宇和島歴史探訪

ぶらり宇和島城下

宇和島の先達たちを訪ねて

● 宇和島城下

「この町は四国の西の端にあり、三方が山に囲まれて前が海。海は船さえあれば、もちろん、出入りができますが、逆にいえば大きな防壁でもある。住民には独特の気風があって、外との開かれた交流を許しながらも、閉じられた独自性を保ちうる。真ん中のほどよいところにお城の山があり、その上に天守閣がある。日本人が心理的に落ち着ける空間のイメージとはこれだな」　（山崎正和）

「日本の町の典型は、城下町に尽きる。その城下町も小さな城下町に限る。その城下町の典型が宇和島という気がして、ここに来ると非常に気持ちが安らぐ。交通の便は悪いせいで隔絶していたということもあるが、単にそれだけではなく、雑種性という点でもこの町は典型である」　（丸谷才一）

『日本の町』（丸谷才一と山崎正和の対談集）より引用

■お城下散策編

お城下歴史探訪マップ　4-5P

宇和島城下に来たらここは外せない　6-7P

散策コースマップ

- Aコース　城山界隈　8-9P
- Bコース　神田川界隈　10-11P
- Cコース　辰野川界隈　12-13P
- Dコース　須賀川界隈　14-15P

先達紹介

- 宇和島伊達家歴代藩主たち　16-17P
- Aコースゆかりの先達たち　18P
- Bコースゆかりの先達たち　19P
- Cコースゆかりの先達たち　20P
- Dコースゆかりの先達たち　21P

付録

- お城下文学散歩　22-23P
- お城下古絵図　24-25P

■お城下お祭り編

- 宇和島の祭り　30-31P
- 八ツ鹿踊り　29P
- 牛鬼　28P
- 伊予神楽　27P
- 寺社のお祭りカレンダー　26P

Photo: ムライカメラ
2015年3月

【監修】　薬師神 親彦（株式会社薬師神親彦デザイン研究所代表）・宇神幸男

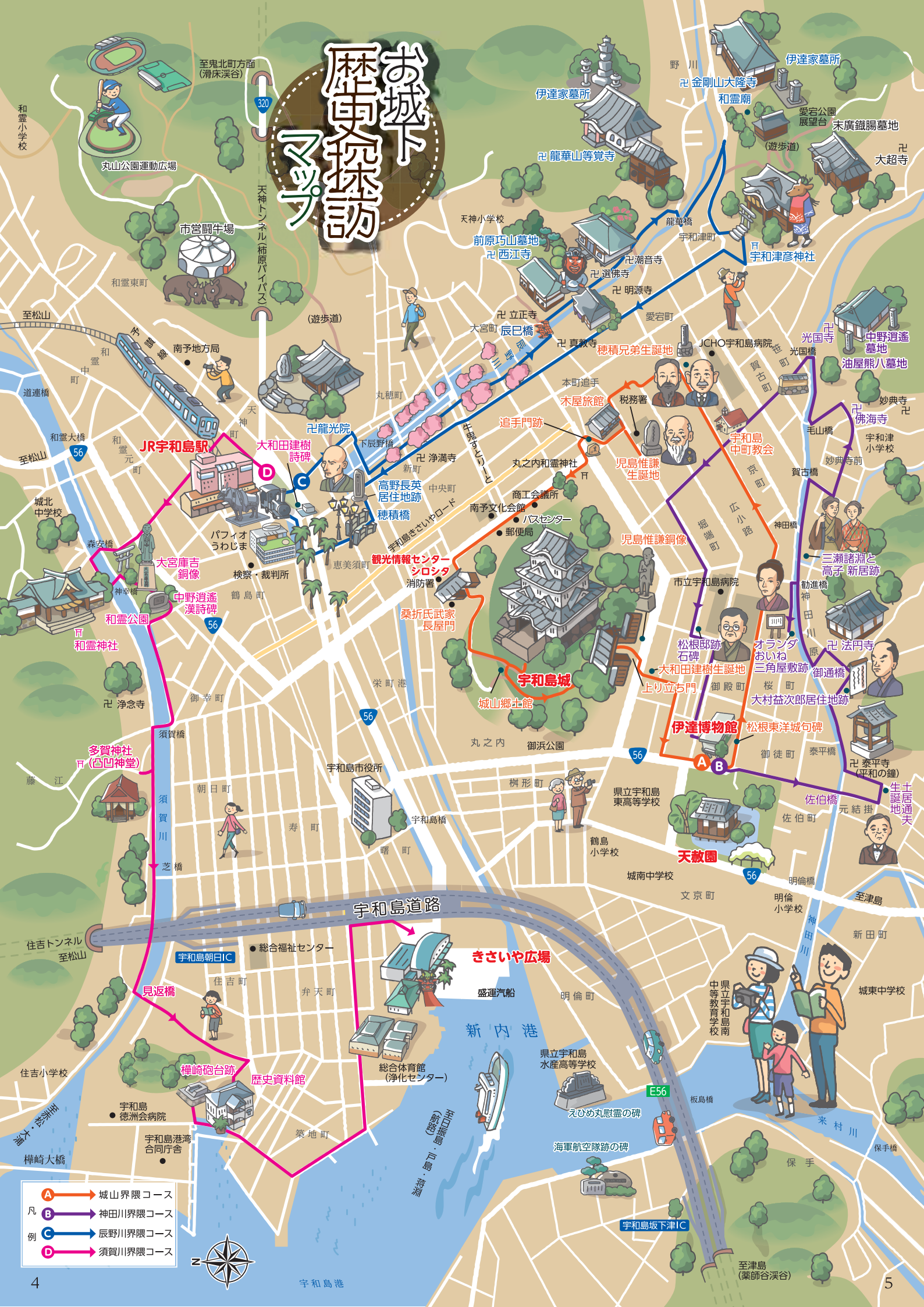
【協力】　（公財）宇和島伊達文化保存会・伊吹八幡神社・宇和津彦神社・多賀神社・和霊神社・丸之内和霊神社・三島神社・光国寺・金剛山大隆寺・西江寺・佛海寺・法円寺・龍華山等覚寺・龍光院・宇和島中町教会・三浦天満神社練り保存会・八ツ鹿保存会・恵日山観音寺・釣鼇山安住寺・愛媛県立図書館・大洲市立博物館・西条市総合文化会館・港区立郷土資料館・奥州市立高野長英記念館・別府市教育委員会・学校法人広島女学院・四国旅客鉄道株式会社・宝酒造株式会社・愛媛弁護士会

【発行】　宇和島市

【印刷】　有限会社 大成社　令和８年（2026）　２月　第５版

【問合先】文化・スポーツ課、商工観光課
〒798-8601　宇和島市曙町１番地
《TEL》0895-24-1111

お城下歴史探訪マップ


至鬼北町方面（滑床渓谷）
320
天神トンネル（柿原バイパス）
和霊小学校
丸山公園運動広場
市営闘牛場
和霊東町
（遊歩道）
至松山
予讃線
南予地方局
和霊中町
道連橋
和霊大橋
56
和霊元町
天神町
JR宇和島駅
大和田建樹詩碑
D
C
卍龍光院
下辰野橋
卍 浄満寺
新町
高野長英居住地跡
穂積橋
中央町
パフィオうわじま
検察・裁判所
恵美須町
宇和島きさいやロード
観光情報センターシロシタ
消防署
桑折氏武家長屋門
森安橋
大宮庫吉銅像
神幸橋
中野逍遙漢詩碑
和霊公園
和霊神社
鶴島町
卍 浄念寺
御幸町
須賀橋
多賀神社（凸凹神堂）
藤江
須賀川
朝日町
芝橋
宇和島市役所
寿町
宇和島橋
曙町
栄町港
宇和島城
城山郷土館
丸之内
御浜公園
宇和島道路
住吉トンネル
至松山
宇和島朝日IC
総合福祉センター
住吉町
見返橋
弁天町
きさいや広場
盛運汽船
明倫町
新内港
総合体育館（浄化センター）
住吉小学校
樺崎砲台跡
歴史資料館
宇和島徳洲会病院
宇和島港湾合同庁舎
築地町
樺崎大橋
至口振島（航路）・百島・横浦
宇和島港
県立宇和島水産高等学校
えひめ丸慰霊の碑
海軍航空隊跡の碑
E56
板島橋
宇和島坂下津IC
至津島（薬師谷渓谷）
来村川
保手
保手橋
城東中学校
県立宇和島南中等教育学校
新田町
神田川
至津島
明倫橋
明倫小学校
文京町
城南中学校
天赦園
鶴島小学校
佐伯橋
佐伯町
元結掛
県立宇和島東高等学校
桝形町
泰平橋
御徒町
卍 泰平寺（平和の鐘）
土居通夫生誕地
伊達博物館
松根東洋城句碑
A
B
御通橋
大村益次郎居住地跡
桜町
御殿町
上り立ち門
大和田建樹生誕地
松根邸跡石碑
オランダおいね三角屋敷跡
卍 法円寺
三瀬諸淵と高子 新居跡
勧進橋
神田橋
神田川原
市立宇和島病院
児島惟謙銅像
堀端町
広小路
宇和島中町教会
京町
賀古町
賀古橋
毛山橋
卍 佛海寺
妙典寺
妙典寺前
宇和津小学校
光国寺
中野逍遙墓地
油屋熊八墓地
光国橋
笹町
JCHO宇和島病院
穂積兄弟生誕地
税務署
児島惟謙生誕地
本町追手
木屋旅館
追手門跡
丸之内和霊神社
商工会議所
南予文化会館
バスセンター
郵便局
牛鬼すとりーと
三嶋神社
丸穂町
大宮町
辰巳橋
卍 立正寺
卍 真教寺
愛宕町
卍 明源寺
卍 選佛寺
卍潮音寺
宇和津町
龍華橋
宇和津彦神社
天神小学校
前原巧山墓地
卍 西江寺
卍 龍華山等覚寺
伊達家墓所
野川
卍 金剛山大隆寺
和霊廟
伊達家墓所
愛宕公園展望台
末廣鐵腸墓地
（遊歩道）
卍 大超寺
A 城山界隈コース
B 神田川界隈コース
C 辰野川界隈コース
D 須賀川界隈コース
凡例
N

宇和島城下にきたら、

現存 12 天守・最も優美な天守のある城
宇和島城（国史跡・重要文化財）

天守観覧料：200 円　年中無休　☎ 0895-22-2832
城山 3 月～ 10 月 6：00 ～ 18：30　他の月～ 17：00
天守 3 月～ 10 月 9：00 ～ 17：00　他の月～ 16：00
A コース　有料駐車場

現在の地に初めて天守が建造されたのは慶長6年（1601）藤堂高虎築城のときとされています。城の外郭は上から見ると不等辺五角形をしており、「築城の名手」と言われた高虎ならではの工夫が見受けられます。

高虎が今治に転封になった後、仙台藩主伊達政宗の長子秀宗が慶長 19 年（1614）宇和郡 10 万石を拝領、翌年入城しました。2代宗利の時、天守以下城郭の大改修を行い、寛文 11 年（1671）に完成。その姿を現在に残しています。

政宗の言葉を冠した 7 代宗紀の隠居所
天 赦 園

入園料：500 円 休園：年末年始／12 月第 2 週～2 月末月曜日 ☎ 0895-22-0056
開園 4 月～ 6 月 8：30 ～ 17：00
7 月～ 3 月 8：30 ～ 16：30
A B コース　無料駐車場

7代藩主伊達宗紀（春山）が隠居の場所として建造した池泉廻遊式庭園。名の由来は、伊達政宗が晩年に詠んだ

馬上に少年過ぎ　世は平にして白髪多し
残躯は天の赦す所　楽しまずして是を如何せん

という漢詩からとったもの。書院式茶亭である潜淵館は、大正 11 年（1922）、昭和天皇が皇太子のころ、天赦園御成の際の御座所にあてられました。

ここは、はずせない！

宇和島伊達家の珠玉の宝物を展示
宇和島市立伊達博物館

入館料：500 円　休館：火曜日/年末年始（12/29～1/3）☎ 0895-22-7776
開館 9：00 ～ 17：00　A B コース　無料駐車場

宇和島市制施行50周年の記念事業として昭和49年（1974）に伊達家屋敷跡に建設された博物館。館内は 3 つの展示室に分かれていて、宇和島伊達家伝来の大名道具を、年 5 回展示替えを行いながら展示しています。

※令和 9 年 3 月28日（日）閉館。約 1 年の休館後、新館は令和10年春オープン予定。

宇和島らしいモニュメントがいっぱい！
JR　宇和島駅

☎ 0895-22-0175
C D コース　有料駐車場

宇和島市丸之内出身で、多くの愛唱歌を発表し、民衆に親しまれ愛される唱歌作家、明治の文学者として多彩な業績を残している大和田建樹（おおわだたけき）の詩碑や、宇和島で最初に走った機関車を復元した模型、闘牛のモニュメントがあります。ぜひ、駅前広場にある大和田建樹作詞「鉄道唱歌」のメロディーを聞いてみて下さい。

中四国 NO.1 に選ばれたこともある道の駅
きさいや広場

休館：1月1日　☎ 0895-22-3934
開館 9：00 ～ 18：00　D コース　無料駐車場

宇和島ならではの海・山の幸をそろえた産直コーナーやレストラン、真珠館や牛鬼館など見どころ・お土産が満載！！

宇和島観光の休憩場所には最適！！

チョコレート好きには堪らないロイズコーナーは西日本で常設しているのはココだけです！

A コース
城山界隈
ぐるり宇和島城

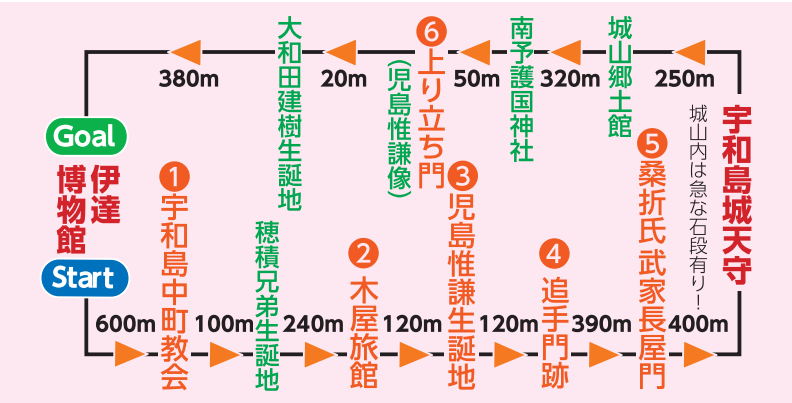
●散策目安時間：約 2 時間
（うち見学時間：約 50 分）

●歩く距離：約 3km

先達紹介 18P・21P

喫茶・郷土料理　野外ベンチ

宇和島が賑やかになったのは、約四百年前、藤堂高虎がここに城を築いた頃からで、城下町ごと要塞になっていました。戦災後も大きく町割りはかわっていないため、複雑な町割りや道があちらこちらに残っています。



1 宇和島中町教会（うわじまなかのちょうきょうかい）
伊達家とも縁が深い教会

宣教師ランバス父子により設立された宇和島初の教会です。明治末にアメリカからきた鐘が平和な音色を奏でています。

2 木屋旅館（きやりょかん）
歴史とデザインが織り成す異空間

多くの著名人が宿泊した、明治44年（1911）創業の宇和島を代表する旅館。平成になってモダンにリニューアルしました！

3 児島惟謙生誕地（こじまこれかた）
護法の神は宇和島藩士

児島惟謙は父が仕えていた藩老宍戸家の長屋で生まれますが、里子に出されるなどつらい幼少期を過ごしました。

4 追手門跡（おうてもんあと）
十万石には過ぎた門

昭和９年（1934）当時の国宝となり国内最大級の櫓門でしたが、昭和20年（1945）の空襲で焼失しました。

5 桑折氏武家長屋門（こおりしぶけながやもん）
城下唯一の武家長屋門

昭和 27 年 (1952) 今の桑折医院前から移築。桑折家は 16 代当主宗臣をはじめ伊達家と縁戚関係をもつ名門の家柄です。

6 上り立ち門（のぼたもん）
国内最大級の薬医門

国内に現存する城郭の薬医門では最大級で、木材分析などにより藤堂高虎創建期まで遡ることができる貴重な門です。

Bコース
神田川界隈（じんでんがわ）
蘭学の小道

●散策目安時間：約1時間20分
（うち見学時間：約30分）

●歩く距離：約3.1km

先達紹介 19P・21P

喫茶・郷土料理　野外ベンチ

幕末の宇和島藩は四賢侯の一人とされる伊達宗城が治め、高野長英、大村益次郎をはじめとした多くの蘭学者によって当時の最先端の知識が集まる地でした。

司馬遼太郎、吉村昭も神田川沿いを好んで散策しています。今も宇和島に残る蘭学者たちの足跡をたどってみませんか。

❶ 土居通夫（どいみちお）生誕地
児島惟謙とは竹馬の友

土居通夫は貧しい下士の子として生まれますが、児島惟謙と共に剣の達人として有名です。

❷ 大村益次郎（おおむらますじろう）居住地跡

嘉永6年(1853) 大村益次郎は8代宗城の招聘に応じ、約2年半ここを住居としました。

❸ 法円寺（ほうえんじ）（妙長山法円寺）
藩主生母が眠る寺

4代村年の生母、夫人の墓が造られ、藩主が墓参するために御通橋ができたといわれます。

【萩森騒動】文化9年(1812)、宇和島藩番頭役、萩森宏綱は下士や領民を苦しめる財政再建案に反対、刃傷事件を起し法円寺にて切腹。その後、同寺には首塚が祀られ、弱者の味方「萩森様」と崇められました。

❹ オランダおいね三角屋敷跡

シーボルトの娘で日本初の女性産科医である楠本イネが住居としていました。

❺ 三瀬諸淵（みせもろぶち）と高子（たかこ）新居跡

慶応2年(1866) 三瀬諸淵と高子(楠本イネの娘)が結婚。この場所を新居としました。

❻ 佛海寺（ぶっかいじ）（法寶山佛海寺）
蘭学者たちが眠る寺

藩蘭方医学の租、富沢礼中をはじめ、加古朴庵、砂沢中安などの蘭学者たちが眠っています。

❼ 光国寺（こうこくじ）（仏性山光国寺）
近現代の偉人が眠る寺

別府温泉を全国に広めた油屋熊八の墓、漢詩の世界で活躍した中野逍遙の墓があります。

Cコース
辰野川界隈（たつのがわ）
伊達家菩提寺をたずねて

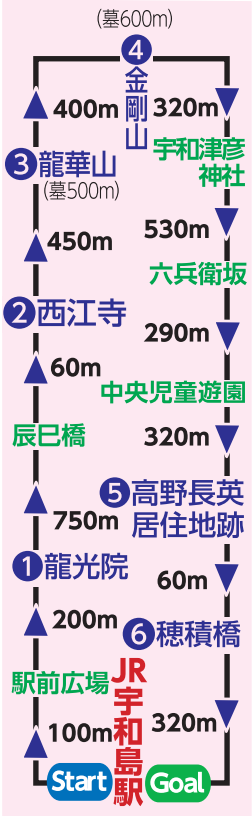
●散策目安時間：約2時間20分
（うち見学時間：約60分）

●歩く距離：約4.9km

先達紹介 20P・21P
宇和島伊達家藩主紹介16・17P

喫茶・郷土料理　野外ベンチ

この辺りは江戸時代から商人や職人の住まいがあった『町屋』として賑わってきました。また川の上手辺りはお寺が集中しているので「寺町」とよばれ、伊達家歴代藩主の菩提寺もたたずんでいます。四季折々の風情を楽しみながらそぞろ歩いてみましょう。



① 龍光院（りゅうこういん）（臨海山福寿寺龍光院）
宇和島伊達家祈願寺

天守の鬼門にあたる丘の上に建立しました。松尾芭蕉の母が宇和島出身との説があることから芭蕉の句碑があります。

② 西江寺（せいごうじ）（仏日山西江寺）
宇和島最古のお寺

宇和島藩の蒸気船を完成させた前原巧山の墓があります。また庭園は江戸時代初期の作庭で、桃山様式を伝える名園です。

③ 龍華山（りゅうげざん）（龍華山等覚寺）
伊達家菩提寺

秀宗が生母を弔うために開山しました。初代・2代・3代・4代・6代・8代藩主の墓があります。

④ 金剛山（こんごうざん）（金剛山大隆寺）
伊達家菩提寺と和霊廟

5代・7代・9代の墓と山家清兵衛の墓「和霊廟」もあります。幕末に活躍した晦巌禅師の寺。

⑤ 高野長英（たかのちょうえい） 居住地跡
「五岳堂」

8代宗城は、逃亡中の蘭学者、高野長英の才能を惜しみ、家老別邸へ密かにかくまい、学塾「五岳堂」となりました。

⑥ 穂積橋（ほづみばし）
仰がれるよりも…

法学者穂積陳重の「銅像となって仰がれるよりも、橋となって多くの人にふまれたい」との言葉から名づけられました。

Dコース
須賀川界隈（すかがわ）
西洋技術タイムスリップ

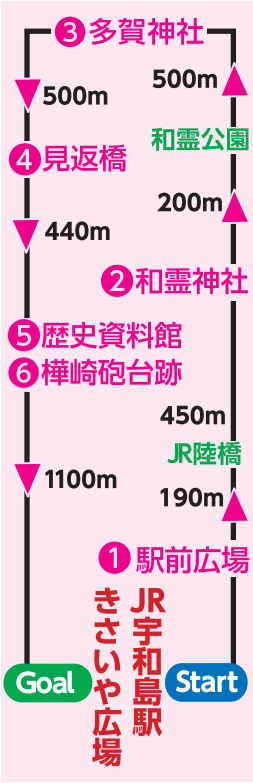
●散策目安時間：約1時間50分
（うち見学時間：約60分）

●歩く距離：約3.4km

先達紹介 21P

喫茶・郷土料理　野外ベンチ

昭和七年（一九三二）の付け替え後、町並みが大きく変わった須賀川界隈。昭和初期の鉄道施設から明治の歴史資料館と幕末の樺崎砲台跡へ。
宇和島市民にも馴染み深い和霊神社、多賀神社にも立ち寄りながら、西洋技術の建造物をたどってみましょう。



①駅前広場（えきまえひろば）
汽笛一声新橋を…

大和田建樹の詩碑や機関車の復元模型、闘牛の銅像がある広場で、「鉄道唱歌」のメロディーを聴くことができます。

②和霊神社（われいじんじゃ）
怨霊から海の神様へ

山家清兵衛の祟りを鎮めるため造営され、その後漁業の神として信仰が広まりました。

③多賀神社（たがじんじゃ）
生と性を祀る社

神功皇后の時鎮座された宇和島最古の社。健康・治病・子授けなどのご利益で有名です。

④見返橋（みかえりばし）
由来は，この世の名残り

処刑される罪人が見納めに城下を振り返ったと伝えられる「見返坂」が近くにあったことから名づけられました。

⑤歴史資料館 明治17年(1884)
鹿鳴館と同時期に完成

宇和島警察署、その後旧西海町役場として使用。当時の愛媛県では先駆的な建物でした。

⑥樺崎砲台跡（かばさきほうだいあと） 安政2年(1855)
開明性の象徴

宇和島藩3砲台の1つ。ここからアーネスト・サトウらの英国艦隊に礼砲を撃ちました。

宇和島闘牛を代表する名牛をモデルとしたモニュメント

宇和島鉄道を走っていた機関車と同型のものです

初代 伊達 秀宗（だて ひでむね）
襲封 25歳 ／ 卒去 68歳
天正19年～万治元年（1591～1658）
－独眼竜政宗の長子－ 龍

仙台藩主伊達政宗の長男。3歳で豊臣秀吉の猶子となる。慶長元年秀吉の猶子として元服、秀の字を受けて秀宗となる。徳川の世に移ると、慶長7年(1602)徳川氏の人質となり、同14年(1609)家康の命により彦根藩主井伊直政の娘亀を夫人とする。

父政宗が秀宗の去就を気に掛ける中、慶長19年(1614)大坂冬の陣の戦功により、宇和郡10万石を拝領、翌年宇和島に入部。治政の中で、総奉行山家清兵衛との確執により、和霊騒動が起こる。明暦3年(1657)の隠居の際、五男宗純に吉田3万石を分封した。

伝秀宗所用の甲冑（宇和島市立伊達博物館）

2代 伊達 宗利（だて むねとし）
襲封 24歳 ／ 卒去 75歳
寛永11年～宝永5年（1634～1708）
－寛文の大改修－ 龍

初代秀宗の三男。兄宗時の死後、宗時の後を継ぎ諸制度の制定に努めるとともに、寛文4年(1664)より数年を費やして城郭の大改修を行い、天守を新造、御殿を移転させた。また領内検地やそれに続く「くじ持制度」を断行、土地制度を変革させた。祖父、父に似て和歌に長じ「自詠愚草集」一巻がある。

宗利所用の甲冑（(公財)宇和島伊達文化保存会）

3代 伊達 宗贇（だて むねよし）
襲封 29歳 ／ 卒去 47歳
寛文5年～正徳元年（1665～1711）
－元禄の高直し－ 龍

仙台藩主伊達綱宗の三男。貞享元年(1684)3月、宗利の二女三保姫の婿養子となる。元禄8年(1695)、吉田分知で7万石に減っていた石高を10万石に戻す高直しを幕府に願い出て、翌年許される。

宗贇所用の甲冑（(公財)宇和島伊達文化保存会）

4代 伊達 村年（だて むらとし）
襲封 7歳 ／ 卒去 31歳
宝永2年～享保20年（1705～1735）
－早世の藩主－ 龍

3代宗贇の三男。製紙を奨励し、その専売制度を実施し、植林を促し林政を整えるなど、産業振興に着手。なお享保の大飢饉も村年の治世。享保20年(1735)5月、参勤交代の帰途、急病のため、播州加古川にて卒する。

村年所用の甲冑（(公財)宇和島伊達文化保存会）

5代 伊達 村候（だて むらとき）
襲封 11歳 ／ 卒去 70歳
享保10年～寛政6年（1725～1794）
－中興の祖－ 金

4代村年の長男。「三百諸侯中屈指の良主」と評されるほどの賢君。農政強化・風俗矯正・身分制度の再建などを行い、藩財政の復興に尽力した。寛延元年(1748)藩校内徳館（のち敷教館→明倫館）を設立し、宇和島の教育推進機関とした。「拾遺詠草」「拾遺外集」を刊行。

また仙台伊達家との本末の争いを起こし、閣老の調停にて対等の別家たることを認めさせた。

肖像画（(公財)宇和島伊達文化保存会）

6代 伊達 村壽（だて むらなが）
襲封 32歳 ／ 卒去 76歳
宝暦13年～天保7年（1763～1836）
－萩森騒動－ 龍

5代村候の四男。当代は享和、文化、文政期に属し、藩の財政も他藩同様に窮乏し、萩森騒動を生じた状態であった。一方、藩校の敷教館（後の明倫館）の教授を充実させ、又藩医を蘭学者 大槻玄沢、蘭方医 伊藤玄朴のもとに入門させ最先端の医学を習得させるなど、文教方面に功績をのこす。

村壽直筆の書（(公財)宇和島伊達文化保存会）

7代 伊達 宗紀（だて むねただ）
襲封 33歳 ／ 卒去 100歳
寛政4年～明治22年（1792～1889）
－長寿大名－ 金

6代村寿の長男。文政から天保期にかけて倹約を徹底し、財政・農政・軍事などの藩政改革を行い、弘化元年(1844)に家督を譲り、「春山」と号す。慶応2年(1866)天赦園が完成、隠居所とする。また能書家としても知られ、多くの作品を残す。

写真（(公財)宇和島伊達文化保存会）

8代 伊達 宗城（だて むねなり）
襲封 27歳 ／ 卒去 75歳
文政元年～明治25年（1818～1892）
－幕末の四賢侯－ 龍

幕臣山口直勝の二男。文政12年(1829)、7代宗紀の養子となるが、これは5代村候の子直清が山口氏の養子となり、その子が直勝であるという血縁によるもの。宗紀の改革を受けて高野長英、村田蔵六を来藩させ、積極的に富国強兵、殖産興業を推進した。英国外交官アーネスト・サトウの回顧録中に「大名階級の中でも一番の知恵者」と賞揚される。安政5年(1858)大老井伊直弼の圧力により41歳で隠居するも、その後も幕末の政局に活躍、福井藩主松平春嶽、土佐藩主山内容堂、薩摩藩の島津久光と並び「幕末の四賢侯」と称される。明治政府では外交関連の高官を歴任、同4年(1871)清国に欽差全権大臣として赴き、日清修好条規の大任を果たす。

写真（(公財)宇和島伊達文化保存会）

9代 伊達 宗徳（だて むねえ）
襲封 29歳 ／ 卒去 76歳
天保元年～明治38年（1830～1905）
－最後の藩主－ 金

7代宗紀の三男。天保8年(1837)宗城の養子となる。宗城隠居後、9代藩主となり、宗城が後顧の憂いなく中央の政局で活動できるよう、宗城を補佐し内を守った。明治24年(1891)、宗城の活躍の功績によって侯爵を授与される。

写真（(公財)宇和島伊達文化保存会）

龍 墓所：龍華山等覚寺　金 墓所：金剛山大隆寺

※年齢は官年（幕府に届けた年齢）

A コース 城山界隈ゆかりの先達たち

藤堂 高虎（とうどう たかとら）

宇和島城

弘治２年～寛永７年
1556　1630

－宇和島城が処女作－

高虎は、豊臣・徳川の両氏に仕え戦功をあげる。文禄４年(1595) 宇和郡７万石を拝領し、板島丸串城（宇和島城）・大津城（大洲城）・今治城を築城。その後も数々の城を手がけ、「築城の名手」とうたわれる。

肖像画（恵日山観音寺）

松根 東洋城（まつね とうようじょう）

伊達博物館

明治 11 年～昭和 39 年
1878　1964

－孤高の俳人－

家老松根図書の孫。愛媛県尋常中学校（現松山東高等学校）在学中、夏目漱石に英語を学ぶ。卒業後も交流を持ち、終生の師と仰ぐ。大正３年（1914）大正天皇へ「渋柿のごときものにては候へど」の句を奉答。翌年俳誌「渋柿」を創刊。
墓所は金剛山大隆寺（Cｺｰｽ）。

写真（宇和島市立中央図書館）

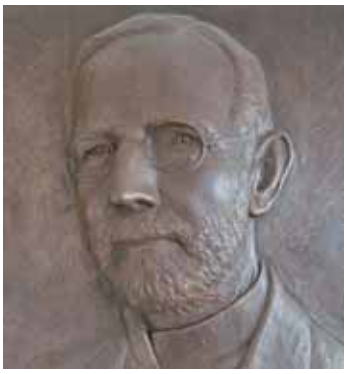
W・R ランバス

1

安政元年～大正 10 年
1854　1921

－宗紀を救った宣教師－

「瀬戸内海伝道の父」と呼ばれる父 JW ランバスとともに西日本中心に伝道活動をする。明治 20 年 (1887)、父と交代で来宇。医者でもあるランバスは重体だった７代宗紀を回復させたといわれる。また関西学院大学など多くの学院の設立にも関わる。



レリーフ（学校法人広島女学院）

児島 惟謙（こじま これかた）

2

天保８年～明治 41 年
1837　1908

－護法の神－

下級武士の家に生まれる。剣術に優れ、４度脱藩し勤皇の志士として活躍。明治４年(1871) 司法官、同 24 年 (1891) 大審院長となる。同年起こった大津(ロシア皇太子襲撃)事件では、政府からの圧力に屈することなく司法権独立の基礎を築いた。

写真（宇和島市立中央図書館）

桑折 宗臣（こおり むねしげ）

5

寛永 11 年～貞享３年
1634　1686

－家老・俳人・歌人－

江戸生まれ。宇和島藩初代藩主伊達秀宗の四男。７歳の時、母と共に桑折家に入り 19 歳で家老職を継ぐ。30 歳頃弟頼邑に家督を譲り隠居。薬師谷山中に庵“青松軒”を建て、俳人・歌人として「青松軒之記」「大海集」「文宝日記」等を残す。

肖像画（愛媛県立図書館「桑折宗臣吟詠集」）

B コース 神田川界隈ゆかりの先達たち

土居 通夫（どい みちお）

1

天保８年～大正６年
1837　1917

－大阪財界の巨頭－

宇和島藩士の生まれ。慶応元年 (1865) 脱藩。尊皇倒幕の志士として坂本龍馬等と国事を論じた。明治に入って大阪府権少参事となり司法官を経て、明治 20 年 (1887) 大阪電燈株式会社を設立。大阪商業会議所会頭として 22 年間在職。

写真（宇和島市教育委員会 文化・スポーツ課）

大村 益次郎（村田蔵六）（おおむら ますじろう むらたぞうろく）

2

文政７年～明治２年
1824　1869

－維新十傑の一人－

周防生まれ。蘭医緒方洪庵の適塾に学び医者となる。嘉永６年 (1853)、８代宗城に招かれ兵書翻訳、軍艦設計や砲台建造に携わった。この間神田川原に村田塾を開く。宇和島在住は２年余、藩在籍は７年に及ぶ。

肖像画（宇和島市立中央図書館）

楠本 イネ（くすもと）

4

文政 10 年～明治 36 年
1827　1903

－日本最初の女医－

シーボルトと長崎の遊女たきとの間に生まれる。シーボルトの門人石井宗謙、二宮敬作に医学を学ぶ。８代宗城に厚遇され、宇和島で医院を開業。長崎と宇和島を往来、情報収集にも携わる。また９代夫人宗徳夫人佳姫の出産にも立ち会い、娘高子は宗城夫人猶姫の奥女中となる。

写真（大洲市立博物館）

三瀬 諸淵（周三）（みせ もろぶち しゅうぞう）

5

天保 10 年～明治 10 年
1839　1877

－シーボルト最後の門人－

大洲生まれ。二宮敬作に医学を、村田蔵六に蘭語を学ぶ。文久元年 (1861) 通訳として、シーボルトに同行、江戸で幕政にかかわる。８代宗城により、宇和島藩に召抱えられた。イネの娘、高子（写真右）【嘉永４年 (1851) ～昭和 13 年 (1938)】と天赦園にて結婚。

写真（大洲市立博物館）

油屋 熊八（あぶらや くまはち）

7

文久３年～昭和 10 年
1863　1935

－別府観光の恩人－

家業の米問屋を継ぐが、大阪に出て米相場で成功。その後無一文となり渡米。帰国後、46 歳で別府にて旅館経営を手始めに観光業で成功。日本初のバスガイド嬢や♨マークの普及など斬新なアイディアで別府を国際観光都市に発展させた。

写真（別府市教育委員会 生涯学習課）

●● 番号は散策ポイント

C コース 辰野川界隈ゆかりの先達たち

前原 巧山（まえはら こうざん）
文化 9 年～明治 25 年（1812～1892）　2
－伊達の黒船の開発者－

伊予八幡浜生まれ。天保 9 年 (1838) 宇和島に来住、細工師としての技能が認められ御船手方に登用される。8 代宗城から蒸気船建造を命ぜられ長崎へ遊学、安政 3 年 (1856) 建造に着手し 3 年で完成させた。

肖像画（宇和島市立歴史資料館）

村上 天心（むらかみ てんしん）
明治 10 年～昭和 28 年（1877～1953）　2
－画禅一致の思想－

幼い時より独学で絵画・彫刻・漢学・禅林等の世界を学び、才能を発揮。自ら天心派と名乗る。昭和 15 年 (1940) に描かれた西江寺の畳八畳敷きにも及ぶ「閻魔大王像」は、「えんま様」と呼ばれ親しまれている。37 歳に大分県杵築に転住、墓所は大分県安住寺。

写真（釣鼇山安住寺）

晦巌（まいがん）
寛政 10 年～明治 5 年（1798～1872）　4
－勤皇の僧－

宇和島藩士の生まれ。出家してのち宇和島藩伊達家の菩提寺大隆寺の 15 世住職となり、7 代宗紀・8 代宗城の帰依を受ける。宗城の国事奔走にあたり諸公卿、諸侯間を往来し助けた。著書に「晦巌日記」47 巻ほか。

肖像画※頂相（ちんぞう）（金剛山大隆寺）

高野 長英（たかの ちょうえい）
文化元年～嘉永 3 年（1804～1850）　5
－シーボルトの弟子－

陸奥水沢生まれ。文政 3 年 (1820) から蘭医学を学び、同 8 年(1825)シーボルトに入門。天保 9 年 (1838)「戊戌夢物語」で開国論を唱え入牢となるが、脱獄し各地に潜伏。8 代宗城の庇護を受け、宇和島で蘭学教授、兵書翻訳、久良砲台（現愛南町）の設計に従事。

肖像画（奥州市立高野長英記念館）

穂積 陳重（ほづみ のぶしげ）
安政 2 年～大正 15 年（1855～1926）　6
－日本法律学の祖－

宇和島藩士穂積重樹の二男。藩校明倫館に学び、明治 3 年 (1870)15 歳の時、貢進生に選ばれて大学南校（東京大学の前身）に入学、さらに開成学校に進み法律学を専攻した。33 歳で日本初の法学博士となる。

写真（宇和島市立中央図書館）

D コース 須賀川界隈ゆかりの先達たち

大和田 建樹（おおわだ たけき）
安政 4 年～明治 43 年（1857～1910）　宇和島駅
－鉄道唱歌の作詞者－

宇和島藩士の生まれ。14 歳で 9 代宗徳に講義したほど優秀であった。明治 19 年 (1886) 東京高等師範学校の教授となるも 4 年後に退職、文筆に専念。国文学・随筆・紀行文・詩歌に厖大な作品を残す。特に詩作に心を傾け、民衆に親しまれる作品を数多く残した。

写真（宇和島市立中央図書館）

大宮 庫吉（おおみや くらきち）
明治 19 年～昭和 47 年（1886～1972）　和霊公園
－宝酒造中興の祖－

宇和島井上家に生まれ、大宮家の養子となる。25 歳の時、「日の本焼酎」を作り大成功をおさめ、清酒松竹梅で有名な四方酒造（後の宝酒造）に招聘される。昭和20年(1945)には社長に就任、郷里を思う念強く、宇和島市公会堂新設の際、巨額の寄付を行い、大宮ホールとして名を残す。

写真（宝酒造株式会社）

中野 逍遙（なかの しょうよう）
慶応 3 年～明治 27 年（1867～1894）　和霊公園
－早世の漢詩人－

南予中学（現宇和島東高等学校）、第一高等学校より東京帝国大学漢学科に進学。正岡子規・夏目漱石らと同窓となる。卒業後は執筆活動を行い、日本近代詩の先駆となった。急性肺炎のため、わずか 28 歳で、死去。墓所は光国寺（B コース）。

写真（宇和島市立中央図書館）

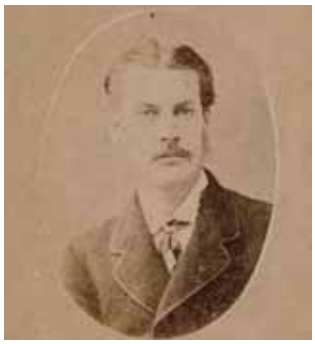
山家 清兵衛（公頼）（やんべ せいべえ きんより）
天正 7 年～元和 6 年（1579～1620）　2
－悲運の総奉行－

米沢生まれ。仙台藩主伊達政宗の抜擢で初代秀宗の総奉行となる。財政難を立て直そうと献策するが反対派により陥れられ、元和 6 年 (1620)6 月 30 日夜、秀宗の命により一家斬殺となる。事件後、災変が多く清兵衛の祟りとされ、秀宗は承応 2 年 (1653) 和霊神社を建立、以後「和霊様」として藩内外から厚く信仰されることとなる。

肖像画（金剛山大隆寺）

アーネスト・サトウ
天保 14 年～昭和 4 年（1843～1929）　6
－親日の英国外交官－

文久 2 年 (1862) イギリス領事館員として来日。日本語を自在に駆使する日本駐在外交官の先駆者である。慶応 3 年 (1867) 兵庫開港問題の情報収集のため、宇和島（樺崎砲台）に寄港、8 代宗城と親交を深める。


写真（港区立港郷土資料館）

●●番号は散策ポイント

お城下 文学散歩

「梟示抄」松本 清張
「歳月」司馬 遼太郎

「闘牛」井上 靖
「研がれた角」吉村 昭

「伊達の黒船」
司馬 遼太郎

「姉」
田山 花袋

「桁打武左衛門」
南條 範夫

「凶徒津田三蔵」
藤枝 静男

「遥かなりわが愛を」笹沢 佐保
「ダブル・トラップ」大沢 在昌

「華やかな葬礼」
難波 利三

「華山と長英」山手 樹一郎
「焔の男」南條 範夫
「長英逃亡」吉村 昭

「ニコライ遭難」
吉村 昭

「四万十川―あつよしの夏―」
笹山 久三※市立宇和島病院

「草の陰刻」
松本 清張
※旧地裁支部

「松風の門」
山本 周五郎

「花神」「鬼謀の人」司馬 遼太郎
「ふぉん・しいぼるとの娘」
「楠本イネ 日本医家伝」吉村 昭

「夕日と拳銃」檀 一雄
「闘神 伊達順之助伝」胡桃沢 耕史

「馬上少年過ぐ」司馬遼太郎
「笹まくら」丸谷才一
「花穏密」岩井 護

「花屋町の襲撃」
司馬 遼太郎

「思い出の記」
徳富 蘆花

天守閣と城山だけが
凝然と青い空をささえていて、
その孤独さは
悲痛なほどである。
司馬 遼太郎
『街道をゆく・南伊予・西土佐の道』より

四方に山があって、
オーストリアの
インスブルックを思わせるが、
段々畑になっている
宇和島の方が綺麗である。
ドナルド・キーン
『四国さすらい巡礼記』より

1.作品は、宇神幸男氏に依頼し選定しました。
2.作品は小説に限定し、詩歌、エッセイ、紀行は割愛しました。
3.市出身作家の作品は除外しています。

お城下古絵図

元禄 16 年（1703）宇和島城下絵図より（伊予史談会）

現在の宇和島城

❶ 上り立ち門（現存）

❷ 天守（現存 12 天守の一つ）

❸ 城山郷土館（移築：旧山里倉庫）

❹ 桑折氏武家長屋門（移築）

明治の宇和島城

❶ 搦手門と豊後橋

❷ 天 守

❸ 追手門（旧国宝）

❹ 黒門矢倉

宇和島城下界隈の見て楽しい

寺社のお祭りカレンダー

	月	場　所	祭　礼	見どころ・一口メモ
春	4月14日	三島神社	春祭り	伊予神楽・餅まき
春	4月29日	龍華山等覚寺	豊川いなり春祭り	牡丹・庭園・餅まき・お茶席（稲荷釜）
夏	6月30日	伊吹八幡神社	輪ぬけ（夏越大祓）	伊予神楽・餅まき・花火
夏	7月23～24日	和霊神社	和霊大祭	和霊神社勧請の日 稚児行列・四ツ太鼓・走り込み・神輿
夏	7月29日	金剛山大隆寺	和霊廟祭	山家清兵衛（天祥院殿）の命日・絵巻
秋	10月14日	三島神社	秋祭り	神輿・獅子舞・牛鬼・四ツ太鼓・餅まき・花火
秋	10月16日	伊吹八幡神社	秋祭り	神輿・走り込み・牛鬼・四ツ太鼓・餅まき・花火
秋	10月19日	三浦天満神社	秋祭り	相撲練りなど多彩なお練り
秋	10月28~29日	宇和津彦神社	秋祭り	神輿・八ツ鹿踊り・獅子舞・猿田彦・牛鬼・餅まき
冬	2月 ※旧暦1月16日	西江寺	えんま祭り	閻魔画像・地獄絵図

龍華山 豊川いなり

伊吹八幡神社 輪ぬけ

和霊神社 和霊大祭

金剛山 和霊廟祭

三島神社 秋祭り

伊吹八幡神社 秋祭り

三浦天満神社 秋祭り

宇和津彦神社 秋祭り

西江寺 えんま祭り

【問合先一覧（五十音順）】

神社

宇和津彦神社	☎ 0895-22-1276
伊吹八幡神社	☎ 0895-22-1282
三島神社	☎ 0895-22-2042
和霊神社	☎ 0895-22-0197

寺院・その他

金剛山大隆寺	☎ 0895-22-3832
西江寺	☎ 0895-22-0489
龍華山等覚寺	☎ 0895-22-1199
三浦公民館	☎ 0895-29-0950

国指定重要無形民俗文化財

伊予神楽　脈々と受け継がれる神職神楽

宇和島周辺の神社例祭には、伊予神楽が舞われます。各地の神楽が神職から一般の人に担い手が移っていったのに対し、伊予神楽は、今でも神職の「かんなぎ会」によって伝承されています。最も古い上演の記録としては元和元年（一六一五）、初代宇和島藩主秀宗が伊吹八幡神社参詣の折の上演で、同神社には江戸時代の神祇本も残されています。全演目を奉納すると夕刻から明け方までかかるので、最近では十数演目、時間を短縮して奉納します。

艶やかな神体鈿女舞

軽快で華やかな悪魔払舞

迫力の火焼き舞

【現在奉納されている主な舞】※奉納順は変わります

・造酒祭舞・式三番舞・清め手草舞・古今老神舞・内舞
・恵比寿舞・悪魔払舞・大蛇舞・神体鈿女舞
・弓舞・神清浄舞・火焼き舞・妙剣舞

（写真：三島神社 平成25年春祭り）

勇猛果敢な露払い

牛　鬼

牛鬼は、牛をかたどった5～6mの竹組の胴体に、丸木で作られた長い首と鬼面の頭、剣をかたどった尾がつき、全身は棕櫚（しゅろ）の毛または赤色の布でおおわれています。加藤清正が朝鮮の役に使用したなどとその起源は様々です。各地の秋祭りの中で、数十人の若者に担ぎ上げられ、子供たちが吹きならすブォーブォーという「ブーヤレ」（竹ぼら）の音を従えて、長い首を打ち振りながら、堂々と練り歩き、家ごとにカブ（頭）をつっこんでは、悪魔祓いをします。南予のみならず、東予や高知県の一部にも分布しています。

例年7月下旬開催のうわじま牛鬼まつりでは、牛鬼パレードがあり、牛鬼たちが盛大に練り歩きます。

牛鬼パレードに集まった各地の色とりどりの牛鬼たち

宇和津彦神社祭礼絵巻（末廣本 / 個人蔵）より

市指定無形民俗文化財

八ツ鹿踊り

伊達の哀愁薫る鹿踊り

鹿踊りは、東北地方から伝わった民俗芸能で南予各地に広まっており、八ツ鹿、七ツ鹿、六ツ鹿、五ツ鹿と分布し、高知県の一部にも継承されています。

10月28～29日の宇和津彦神社の秋祭りで奉納される八ツ鹿踊りは、雄鹿たちが雌鹿を訪ね探して遂に発見して喜ぶ「めじかかくし」という踊りで、変声期前の少年8人（7人が雄鹿、1人が角のない雌鹿）が頭をつけ、その頭から垂れた紅染の布で上半身を覆い、手甲、脚絆、草履ばきで、胸の太鼓をトントコトントコと打ちながら踊り、その哀調を帯びた旋律はゆったりと大変優雅です。一方その原型となった東北の踊りは活発で、頭も鹿頭ではなく、権現型と言われる獅子頭で、とても勇壮です。

鹿に扮した小学児童たち、変声期前の美しい歌声が響きます

宇和津彦神社祭礼絵巻（末廣本 / 個人蔵）より

宇和島の祭り

愛媛県は、県庁所在地の松山市周辺を中予、それより北東を東予、そして南西を南予と3地区にわけられ、それぞれの風土もちがっています。当然「祭り」にもその違いを見て取ることが出来ます。東予はだんじりや太鼓台に代表される大型の山車が、中予では山車は出ることがなく神輿の鉢合わせがその主役を担います。

そして、南予では牛鬼、四ツ太鼓、鹿踊、相撲練りといった様々な練りが登場します。その発信源は宇和島城下でしたが、古い形態を残したまま続けられている祭りが、城下より車で20分ほど走った沿岸地にあります。それが、『三浦天満神社祭礼の練り』となります。

宇和津彦神社祭礼絵巻（末廣本 / 個人蔵）より抜粋

県指定無形民俗文化財

三浦天満神社祭礼の練り

～郷愁誘う古き良き祭り～

三浦天満神社は、宇和島市三浦に位置する旧郷社です。『愛媛県神社誌』によると、正暦4年（九九三）、京都北野天満宮より菅原道真神を勧請、天満宮と称しました。例年10月19日の秋祭りに奉納される練りには古くから伝わるしきたりや習俗がよく残されていて、愛媛県の文化財に指定されています。

その起こりは不明ですが、三浦地区の庄屋家文書（三浦田中家文書※市指定有形文化財）には、天保15年（一八四四）の記事に練りのことが書かれていて、これよりも前には始まっていたのでしょう。三浦地区の各自治会・保存会が担当する8つの練りが毎年同じ順番で奉納されます。少子化のため、演者の中心である子供の確保に苦心しつつも、練りの保存と継承が行われています。

一番 お鉄砲（天満）

法被に袴姿で、鉄砲を肩にした足軽姿で練ります。宇和島藩総鎮守・宇和津彦神社の江戸時代の祭礼絵巻には、練り武士の姿があります。南予地方でも鉄砲や弓の練りは少なくなり、貴重な練りとなっています。

二番 お弓（豊浦）

お鉄砲に続き、武具を持った練りです。黒地に白の梅鉢紋の羽織に裁っ着け袴で、弓矢を肩にかけます。昔は青年団が参加していましたが、都会へ行く若者が多くなり、子供が参加するようになりました。

三番 相撲練り（大内）

行司が、相撲の由来取口を語り、化粧まわしの紅白の横綱を締めた東西の四股名の力士が相撲を取ります。中入りには「ドスコイ、ドスコイ」と拍子をとりながら相撲甚句にトントコ節を入れて歌います。（休止中）

四番 鹿踊り（船隠）

雄4・雌1の五ツ鹿で、紅白横縞の幌幕をつけ、締太鼓を打ちながらの優美な踊りは、南予地方の他の鹿踊りが主に4拍子であるのに対し、三浦天満神社のものは6拍子で舞う非常に珍しいものです。（休止中）

五番 荒獅子（豊浦）

青年による2人立の獅子が、屋台のお囃子に乗り、激しく頭を動かし小刻みに尻尾を振り続けます。囃方が屋台の大太鼓、小太鼓を打ち、徳助夫婦役は鳴り物を持つなど、南予の一般的な獅子舞とは異なります。

七番 大江山（安米）

丹波の「大江山鬼退治伝説」で活躍した者たちに扮した、勇ましく、豪華・優美な子供武者の仮装行列です。大江山は、江戸・神田明神の祭礼の代表的な練りで、宇和津彦神社の絵巻にも登場しています。

九番 よいやさ（船隠）

台の中には、太鼓の叩き手4名（6年前より2名）が乗り、担ぎ手20名、笛吹き1名の男子が出ます。移動中の掛け声は「ヨイセ」、見せ場の時は「まんざい、らくさい」と掛け、笛の合図で切り替わります。（休止中）

十番 牛鬼（天満）

南予地方の祭礼の代表的な練りである牛鬼は、練りの最後に登場します。牛鬼は、魔除けの意味があるといわれ、三浦地区の牛鬼は「ホンチンエー」の掛け声で、頭を持ち上げます。牛鬼の後に神輿が通ります。